

## 天使大学紀要 執筆要領

1. 本文は、約16,000字以内とする。提出用原稿は、原則として和文または英文の横書きとして、図表、写真、注釈、引用・参考文献も含めて、A4判（1頁は全角1行40文字×30行）を20枚以内（本文は約A4判13枚半）とする。
2. 論文は、記載順に（1）テーマ、（2）著者名、（3）所属、（4）原稿枚数・図・表・写真の数、（5）要旨（250語程度の英文または和文）、（6）キーワード（日本語で5語以内、英訳をつける）、（7）本文、（8）注釈、（9）引用・参考文献として、（1）～（4）は表紙一枚にまとめ、和文にあっては、テーマ・著者・所属機関および職位の英訳語をつける。
3. 原則として、漢字は当用漢字、送りがなは新かなつかいを用い、数字は算用数字とする。また、外国語にはなるべく訳語をつける。
4. 図・表・写真は、それぞれ別紙としてまとめて原稿の末尾に添付する。また、本文中には図・表・写真が挿入されるべき位置を明示する。番号と題については、表はその上部に、図と写真は下部に記し、説明文はいずれも下部に記す。
5. 文献および注釈、引用・参考文献の記し方は、次の記載法によるが、著者の所属する学会の標準的な方法も用いても構わない。
  - （1）本文中の引用文献は、その右肩に番号をつけ、末尾の文献表は引用順として本文中の番号と照合する。
  - （2）文献の記載形式は次の通りとする。
    - ① 書籍の場合
      - a) 単著  
著者名：書名、（シリーズ名、巻、版など）、ページ、出版社、発行年  
【例】 河野友信：ストレスの科学と健康、23、朝倉書店、1988  
Siann, G: Educational Psychology in a Changing World, 354, Academic Press, 1980.
      - b) 共著  
著者名、表題、編者（監修者）名：書名、（シリーズ名、巻、版など）、ページ、出版社、発行年  
【例】 上地安昭、第5章不応症候群、安藤延男：学校社会ストレス、講座 生活ストレスを考える、79、垣内出版、1985
      - c) 訳本  
著者名、表題、編者（監修者）名：書名、（シリーズ名、巻、版など）、ページ、出版社、発行年  
【例】 Gagne, E.D.: Cognitive Psychology of School Learning, Academic Press, 1985,  
岸学訳：学習指導と認知心理学、72、パーソナルメディア、1989。  
Siann, G: Educational Psychology in a Changing World, 354, Academic Press, 1980.
    - ② 雑誌の場合  
著者名：論文題名、（副題）、雑誌名、巻（号）、ページ、発行年  
【例】 野口玉雄他：ふぐの毒、とくにその起源と毒化機構について、食品衛生学雑誌、30(4), 283, 1989。  
Gleser, G. C.: Speed of Response as Measure of Difficulty, American Journal of Psychology, Vol. 64, 548-549, 1951.

---

注 1. 記載形式内の ( ) は、必要に応じて記入する。

注 2. 訳者、編者、監修者などは、氏名の後に、訳、編、監修などを付する。

注 3. 著者などが 2 名の場合は全員を記入し、3 名以上の場合は省略形式を用いてもよい。【例】(○○○○他)、(○○○○ et al)

注 4. 発行年は、西暦に統一する。

注 5. 外国人の現綴りは、Family, First, Middle name の順とする。First, Middle name については、イニシャルのみでもよい。

(3) 参考文献は、引用文献の次に著者名のアルファベット順に一括して記載する。記載文献は、引用文献に準ずる。